氷ノ山の蝶類

吉　阪　道　雄

私は1954月7月12、13日、更に同月27～29日、氷ノ山に採集を試みたが、今夏の長雨、低温で余り良い成果を収め得られ無かつたが、同山の蝶相に就いては未だ余り知られて居ないようなので下記、御報告申上げる次第である。なお、種々、教示頂いた西村公夫氏、前期に於いて同行された岡村八郎氏に厚く感謝の意を表したい。

（コ　ー　ス）

Ⅰ.　7月12日　鳥取→若桜→春米→ワサビ谷→氷ノ山頂上→ワサビ谷→春米

7月13日　春米→氷ノ山越→春米

Ⅱ.　7月27日　八鹿→福定→地蔵堂→福定

7月28日　福定→氷ノ山越→氷ノ山頂上→氷ノ山越→福定

7月29日　福定→鉢伏山→福定

Ⅰ．アゲハチヨウ科 PAPILIONIDAE

1. キアゲハ　Papilio machaon hippocrates FELDER et FELDER

頂上に多く、全て♂で、いわゆる、山頂占有性を示して居た。

2. ミヤマカラスアゲハ Papilio maackii satakei MATSUMURA

鉢伏山より下山の途中、福定附近で明らかに本種たる1♂を目撃したが採集に至らなかつた。

Ⅱ．シロチヨウ科 PIERIDAE

1. キチョウ Eurema hecabe mandarina DE L'ORZA

同じく福定附近より1♂1♀を採集、1♀は可成り大型の個体である。開張52mm

2. スジグロシロチョウ Pieris melete MÉNÉTRIÉS

春米附近に至る処、多く 13 ♂♂3♀♀を得たが、エゾスジグロ（P.napi japonica SHIROZU）は混じて居なかつた。

Ⅲ．ジヤノメチヨウ科 SATYRIDAE

1. ウラナミジヤノメ Ypthima motschulskyi BREMER et GREY

鉢伏山にて2♂♂を得たのは稍々意外の感がした。標高1000m前後で可成りの高地分布と思われる。

2. ジヤノメチョウ Satyrus dryas bipunctatus MOTSCHULSKY

福定附近より1♀を得た、高地に見られる小型の個体である。

3. ヒメキマダラヒカゲ Lethe callipteris BUTLER

前期に於いては後種のみで本種は殆んど見られなかつたが、後期に於いては山頂～尾根～地蔵堂間に多く、また、鉢伏山にても得た。6♂♂3♀♀

4. キマダラヒカゲ Neope goschkeritschii MÉNÉTRIÉS 前期に於いていたるところ多く、活潑に飛翔して居た。伯耆大山、段ケ峯と共通の山地の黒化した個体である。

5. ヒメジヤノメ Mycalesis gotama fulginia FRUHST-ORFER

前期氷ノ山越にて1♂を得、可成り高地に分布すると思われたが、後期に於いても頂上（1510 m）～氷ノ山越1252m間で再び1♂を得た。

Ⅳ．タテハチヨウ科 NYMPHALIDAE

1. ミドリヒョウモン Argynnis paphia geisha HEMMING 前期に於いて春米附近に非常に多く、アザミの花に飛来して居た。末だ♀は少なく、中国山脈のみに見られる黒化型の♀も見られなかつた。8♂♂1♀

2. ウラギンヒョウモン Argynnis cydippe pallescens BUTLER

前種とともに見られたが、稍々少なく、また、本種の方が発生が早いためか、新鮮を缺いて居た。後期には鉢伏山に多く更に汚損して居た。なお、♂でありながら産卵時のように、地上に静止する興味深い一習性を観察した。6♂♂1♀

3. オオウラギンヒョウモン Argynnis nerippe FELDER et FELDER

鉢伏山より下山の途中、福定附近で羽化後、間もない1♂を得た。山地の小型の個体である。

4. オオウラギンスジヒョウモン Argynnis ruslana MOTSCHULSKY

同じく福定附近で1♂1♀を得た。

5. イチモンジチョウ Limenitis camilla japonica MÉNÉTRIÉS

鉢伏、地蔵堂で2♀♀得たが、内1♂は春型（稍々不完全）であり、1♀は夏型で、著るしい白帯の狭少型の個体である。

6. コミスジ Neptis aceris passerculus FRUHSTORFER

福定。1♂

7. ヒョウモンモドキ Melitaea phoebe scotosia BUTLER

春米附近で岡村氏が2♀♀を目撃、内1♂を採集された。次種より出現は早期、稍々、個体数は少ないとは云え、該地では可成り少いものと思われる。

8. ウスイロヒヨウモンモドキ Melitaea protomedia MÉNÉTRIÉS

古くより、大山に次ぐ産地ととして知られて居る。鉢伏山にて得た。前期に於いて春米附近の草原に有望視していたのであるが、時期が稍々過ぎたためか、全く見られなかつたが、時期さえ得れば必ず産するものと思われる。後期、鉢伏にて得たものは殆んど不完全で♀が多く、1♂10♀♀を得た。産卵習性に注意したが遂に見られなかつたが、恐らく他地の例と同じくオトコエシ、オミナエシを食すると思われる。なお、同地のものには三瓶、大山のものより裏面の斑紋は白味が強く、段ケ峯のものと同様であるが、段ケ峯のものより稍々大型である。なお、斑紋の変化に就いては九州大学の白水教授の許に御送りして置いたので、何れ、同教授に依り発表がなされる筈である。

9. サカハチチョウ Araschnia burejana strigosa BUTLER

前期に於いて春米附近で夏型に混じ、未だ春型（稍々不完全の程度）♂♀を得た。

10. シータテハ Polygouia c-album hamigera BUTSER

春米附近で不完全の夏型1♀、後期に於いて外野より福定に登る途中、路上で新鮮な1♂を得た。更に同日、地蔵堂に向う溪流で岩に静止する1♂を目撃した。中国山脈では私は伯耆大山より得て居るが、扇ノ山、那岐、沖ノ山、段ケ峯にも産する由であるから分布は広いものであろう。

11. コムラサキ Apatura ilia substituta BUTLER

鉢伏山、1♂、山地共通の黒化した個体。

V. **シジミチヨウ科** LYCAENIDAE

1. ウラクロシジミ Iratsume orsedice BUTLER

後期に於いて地蔵堂附近で夕刻、キラーと白銀の翅表をひるがえし飛翔の2♂♂を目撃したが、採集に至らなかつた。

2. エゾミドリシジミ Faronius jezoensis magnificans MURAYAMA

地蔵堂附近の谷間にのみ、後の2種とともに見られ、私の特に鋭意、採集に努めた本類、（Zephyrus）では最も多くの個体数を占めて居た。しかし、足場が悪く採集には困難を極めた。後の2種と異り、午すぎより夕方にのみ現れ、午前中の日週活動は認められない。16♂♂

3. ジヨウザンミドリシジミ Faronius ultramarinus FIXSEN

同じく、同所にて午前8.30～9.00に2♂♂を得た。午後には全く見られず。

4. アイノミドリシジミ Neozephyrus aurorinus OBERTHUR

上記、ジヨウザンミドリと混じて採集。2♂♂午後の日週活動の認められない事は同様である。

5. トラフシジミ Rapala arata BREMER

鉢伏山にて春型（稍々不完全）1♀を得た。残存個体と思われるが、夏型は1頭も見なかつた。

6. クロシジミ Niphanda fusca shijima FRUHSTORFER

福定～地蔵堂間で1♂を得た。ミズナラを Zephyrus と思い採集したのが本種であつた。羽化後、間もない個体であつたから今後発生するものと推察される。

VI. **セセリチヨウ科** HESPERIIDAE

1. ホソバセセリ Isoteinon lamprospilus FELDER et FELDER

福定附近に非常に多く4♂♂3♀♀を得た。新鮮で、♀には可成り大型の個体もある。

2. ユキマダラセセリ Ochlodes venata BREMER et GREY

前期に於いて岡村氏が春米附近で1♂、後期に於いて私が鉢伏山より2♂♂を得た。

3. ヒメキマダラセセリ Ochlodes ochracea rikuchina BUTLER

地蔵堂、氷ノ山越附近に多く見られた汚損したものが多かつた。1♂1♀

4. イチモンジセセリ Parnara guttata BREMER et GREY

氷ノ山越にて1♂、一化のものらしく秋期のものより黄色味が強い個体。

なお、当山の類としては次のものも採集記録されて居るようであるが、今回は採集、目撃ともし得なかつた。

I. **シジミチヨウ科**

1. フジミドリシジミ Favonius fujisanus MATSUMURA

古く、神戸一中在学当時の山田敬太氏の採集を聞及んで居た処、先般、山本広一氏の御採集品中より1♂を拝見する事が出来た。また、同地で御目に掛つた守本陸也氏よりも頂上附近で得られると伺つた。

2. ウスイロオナガシジミ Antigius butleri FENTON

本誌先号、山本広一氏久崎の蝶（2）の中で同氏が1頭採集された旨記されて居る。

II. **セセリチヨウ科**

1. ホシチヤバネセセリ Aeromachus inachus

MÉNÉTRIÈS

横山光夫著、原色日本蝶類図鑑保育社に多産すると記されてある。

〔追　　加〕

I. アゲハチヨウ科

1. ウスバシロチョウParnassius glacialis mikado BRYK et EISNER

鳥取県立鳥取第二中学校々友会誌〃柏葉〃5号、鳥取県産蝶類に就いて（永見一男、石賀紀他）に春米附近より氷ノ山越に至る間にて昭和8年5月27，8日十数頭採集の記録がある。

II. シロチヨウ科

1. ツマキチョウ Anthocaris scolymus BUTLER

同上に記録。

2. スジボソヤマキチョウ Gonepteryx mahaguru niphonica VERITY

同上にヤマキチョウとあるが本種と思われる

III. ジヤノメチヨウ科

1. クロヒカゲ Lethe diana BUTLER

同上に記録。

IV. マダラチヨウ科

1. アサギマダラ Caduga tytia niponica MOORE

同上に記録。

V. シジミチヨウ科

1. ミズイロオナガシジミ Antigiws attilia BREMER,

同上に記録。

2. コツバメ Ahlbergia ferrea BUTLER

同上に記録。

なお、最後に今回の採集を通じて感じた事は、本年の発生の不良とは云え、種類は豊富であるが、個体数は余り多くないようで、殊に私の嘱目した Zephyrus 類では特にその感を深めた。特にその主要食樹たるミズナラ、マンサク、ブナは丈余の大木も珍らしくなく非常に豊富であるのに稍々意外であつた。また、氷ノ山は氷ノ山越を通して兵庫、鳥取と両県に跨つて居る訳であるが、前期に於いて氷ノ山越に至り感じた事は南面の兵庫県側が遙かに気温も高く、植物にも開花が見られ、昆虫（蝶例、ヒメキマダラヒカゲ）の発生が見られた。また、本夏の気候一般に遅延とは云え、ミヤマカラスアゲハ（7月15〜20日迄、滞在の伯耆大山では既に多数発生）オオウラギンヒョウモン（当地に赴く途中、立寄つた毀ケ峯（900 m）では既に♀の盛期）ウラナミジヤノメ（同じく栃原では7月上旬最盛期）ウラクロシジミ、クロシジミ（同じく毀ケ峯で♂♀最盛で、既に不完全個体も見受られた）コキマゼラセセリなどは発生の端緒と思われ、更にトラフシジミ、サカハチョウ、イチモンジチョウの春型、エゾ、アイノ、ジョウザンの Zephyrus 類の全て♂（大山では此の候、殆んど♂は不完全で♀が大半となる）の生存は同地の発生が他地より稍々遅延を示すものではないかと示唆された。（5 ×1955記）